

コミュニケーション

2006・1月号

OMORIYAMA

ZOO

NEWS

大森山

No.71



シンリンオオカミ

画：佐藤一男



秋田市大森山動物園
Akita Omoriyama Zoo

ほっといんふおめーしょん



1

チンパンジーのココと赤ちゃん



2

チンパンジー ジェーンの赤ちゃん



3

シンリンオオカミ



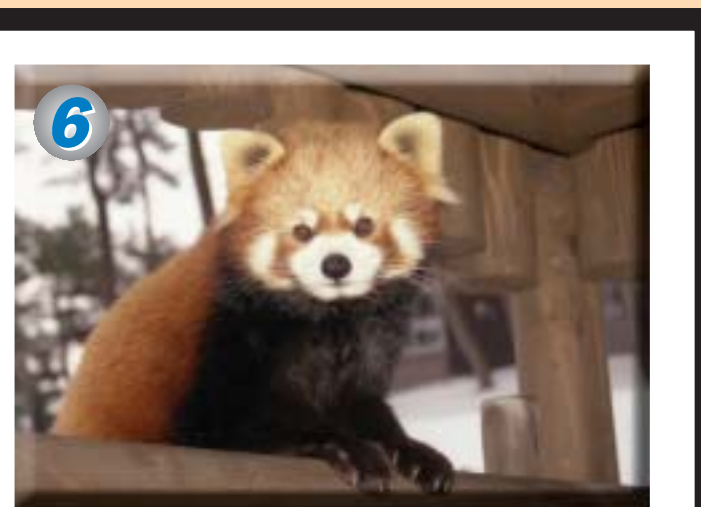
4

秋まつり「動物ふれあいカーニバル」



5

グラントシマウマ(コタロウ)



6

シセンレッサーパンダ(ハナ)

オオカミから学びたい

大森山動物園長 小松 守



▲目上のメス・サラが年下の新入りオオカミ・ハチの挨拶を受ける
(撮影：吉岡幸作さんー動物園フォトコンテスト入賞作品)

さて、イヌの祖先を家畜化しやすかった理由は幾つかある。イヌは人が扱うのに適当なサイズであったこと、また人もイヌの先祖も同じ食物（肉）を求め狩りをしていたという密接な関係などがあげられよう。しかし、何よりも群で生きるイヌの特性、すなわち駆引きのないストレートな仲間関係と秩序を重んじるイヌの性質が、人との関係を保つためには欠かせない重要な要素であったはずである。

かつてオオカミの子育ての中にこうしたイヌの特性をかいま見た。オオカミは哺乳類の中ではオスも育児に参加する珍しい動物であるが、子がえさをねだり口元にじゃれ付くと親父オオカミは一度食べたものを吐き出し子に与えたり、母親は何か不安を感じると子をくわえ巣の中に隠すなど、愛情たっぷりの子育てに感心させられた。

その子育ての中に厳しい掟を教え込むシーンを目撃したことがあった。子が成長したある日、親父がえさを食べているところへ子どもたちと母親がえさをとろうとして近寄って来た時のことであった。前日まで仲良く食べさせてくれた親父が一転、低く恐ろしい唸り声を出し始めたのだ。しかし、まだオオカミ社会の掟を知らなかった子オオカミたちは、空腹のあまりえさに手を出したのであった。その瞬間、親父の逆鱗に触れたのであった。親父の攻撃とすさまじいなり声、そして悲鳴とでオオカミの寝小屋は一大パニック。子オオカミたちは這這の体で部屋の隅へと逃げ出したのである。無論、母オオカミは騒ぎの渦の中にはいなかった。

オオカミ社会の掟を親父は自然に湧き出た怒り、体罰で教えたのであろう。群でいけるためには序列、順位は無視できないのである。子オオカミたちはその後、からだで覚えたあの痛さと恐怖を決して忘れることはなかったはずである。イヌが人に馴れ一定の関係を保てるのは、この社会性・順位性を大事にする動物だからであろう。その原点、大事な部分は愛情と厳しさの両面を持つ親子関係にあると言っても過言ではない。ちなみに生後2～3ヶ月の社会化期間をうまく受けることのできなかった子犬は人との関係、馴化がうまくいかないと言われる。戌年の今年、人の群すなわち社会で生きる大切なものをオオカミの生き様を見ながら学んでみたい。

HOT INFORMATION ほっといんぷおめーしょん

▶ 育てている3頭のオオカミと群れづくりができるように現在訓練中。

1 チンパンジーのココ来園 子どもをあやすチンパンジーのココ。ココは繁殖を目的に東京都多摩動物公園から妊娠した状態で10月12日に来園。その後11月7日に無事に元気なオスの赤ちゃんを出産し、赤ちゃんは順調に成長中。このまま順調に育てば、大森山動物園では母親が育てる初めての例になるかもしれません。

2 チンパンジーのジェーン再び！ 動物園で一番年上の「ジェーン」（38歳）が2年連続でボンタとの間にオスの赤ちゃんを出産。しかしジェーンは母乳の出が悪く赤ちゃんが衰弱してきたため、誕生6日目に人工哺育に切り替え、今は元気を取り戻し力いっぱい哺乳ビンに吸い付いている。（詳しくは動物病院からを参照）

3 シンリンオオカミ 12月5日、富山市仲間入り ファミリーパークから繁殖を目的に2頭のオオカミが仲間入り。既に飼

4 秋まつり 「動物ふれあいカーニバル」 10月9、10日に開催した秋まつり。2日間で10,872人の来園者が訪れ、動物パレードやクイズ大会など様々なイベントを開催し終日来園者で賑わった。

5 訃報 グラントシマウマ コタロウ (オス)享年8歳(1997.7.16生まれ)
5年前に繁殖を目的として広島市安佐動物園から来園し、3頭の子供をもうけました。11月8日、突然の嵐、雷と暴風雨に驚きフェンスに激突、それが原因で翌日亡くなりました。

6 訃報 シセンレッサーパンダ ハナ (メス)享年15歳(1990.6.29生まれ)
8年前、秋田に最初に来たレッサーパンダがハナでした。愛くるしい顔で来園者を魅了してきましたが、11月10日に老衰のため亡くなりました。



特集

大森山動物園条例をつくる

今なぜ動物園条例をつくらうとしたのか？

秋田での動物園の歴史は、昭和 25 年に千秋公園につくられた児童動物園から始まる。

その後、昭和 48 年には豊かな自然に恵まれた大森山公園への移転し、施設の整備拡充や新たな動物導入、あるいはさまざまな活動を行って現在の大森山動物園に至っている。

これまでレクリエーションや癒しの場を提供し、あるいは動物の生態や命を学ぶ場として、さらには希少動物の保全への寄与など、さまざまな要請に対応した活動を模索し、実践してきた。しかし、大森山動物園の果たすべき役割、進むべき道をこれまで正式な形で明示されていなかった。開園から 30 年以上が経過し、動物園のあり方が全国的にも注目されている今、大森山動物園の設置理念を内外に明確に示すことで、その存在意義をさらに高め新たな飛躍をとげるために秋田市大森山動物園条例の制定をめざした。

本条例をつくるにあたり、市民といっしょになって考え、より多くの市民からの声も反映させようと 2 回のシンポジウムが開かれた。今回はその概要を紹介する。

子どもシンポジウム



▲シンポジウムの様子

9月4日、大森山動物園の森ステージで、秋田市内の金足東、川尻、泉、河辺の各小学校と秋田西中学校から約 200 名が参加して、自然環境と動物園、楽しみとしての動物園、学校と動物園、地域と動物園、命を伝える動物園などといったテーマで、こうあって欲しい動物園の姿を各校の代表者に意見発表してもらった。会場にいた父兄や一般の入園者も参加して多いに盛り上がり、これからの動物園についてみんなといっしょに考えることができた貴重な時間であった。

子どもたちからは動物を調べたり、楽しく学べ、また体験できる動物園に、あるいは命について考える場であって欲しい、さらには総合的な博物館のような施設になって欲しいなどの子供の感性で捉えた動物園像を建設的な意見で描いてくれた。

出前授業

子どもシンポジウムに向けて、動物園の様々な役割について知ってもらおうと、上記5カ所の小・中学校で動物園職員による事前出前授業が行われた。

動物園は楽しむ場所だけではなく、学ぶ、動物や自然を守る、研究するなどの機能を持っていることを子どもたちは改めて知ったようで、大きな成果があった。また子どもたちのユニークな意見も聞いたことも大変有意義な出前授業であった。学校と動物園との新たな展開の一步となった。



▲秋田市立河辺小学校での出前授業の様子

シンポジウム「明日の大森山動物園を考える」



▲シンポジウムの様子

て欲しいという教育界からのご意見、動物園は市民が支えなければならないこと、観光拠点ともなる動物園は都市の魅力アップにもつながるなどの提言があった。

会場からは、子供たちに生と死、命の尊さを伝える場が少ない現代社会になって動物園は貴重な場所であり積極的な活動の展開を希望する声、親子が優しい気持ちで集える場になって欲しい、さらに動物園は平和のシンボルでもあり常に光り輝いて欲しいなど、市民からもたくさんの意見が寄せられ、会場が一体となったシンポジウムであった。

また、シンポジウムに先立ち、旭川市旭山動物園の小菅正夫園長が駆けつけてくれ「元気の良い動物園をつくるには」と題した基調講演をしていただき、動物園の魅力づくりのため、飼育職員のガイドや動物の能力を引き出すユニークな行動展示などが、スライド上映で紹介していただいた。



▲基調講演をする旭山動物園 小菅園長

条例抜粋

(理念)

第2条 動物園は、大森山の豊かな自然の中で、動物との出会いおよびふれあいを通して、市民のレクリエーションの場を提供することにより、自然および命の大切さについて学び、かつ、動物の命をつなぐ場を目指すものとする。

大森山動物園の進むべき道、あるべき姿(理念)が明らかになった今、私たちスタッフは新たな気持ちで、本条例の理念に沿いながら新しい一歩を踏み出します。動物園への変わらぬご支援をお願い申し上げます。

平成 18 年 1 月 1 日施行

飼育レポート

飼育展示担当 舞田 桂 悟

ニホンコウノトリは、明治以前は日本で幅広く見られた鳥です。しかし人の手により日本産のコウノトリは絶滅に追いやられました。現在ロシアから中国にかけて2～3千羽が生息するのみです。また、日本で飼育されている個体も全て大陸産のものです。

そんなコウノトリの担当になったのは昨年4月からです。当園では雄雌1羽を飼育していますが、オスの「タイサ」が2004年11月に何かに驚き金網につっかけて嘴を折ってしまいました。上嘴を折ったことで生き餌は食べられなくなりましたが、命に関わる問題ではありません。しかし、観察していると餌を上手に食べられないストレスからか餌の時間にメスに対する威嚇が目立つようになりました。この状況では繁殖は望めないの、何とか義嘴を付けたいと思うようになりました。

獣医師に相談したところ、歯科医の材料に良い素材があるということで、以前通っていた秋田市にある旭北歯科医院の千葉先生に話を聞きに行きました。話を進めて直ぐに義嘴を作ってくださいることになりました。

義嘴は、人の入れ歯と同じ素材でとても精密なものことができました。義嘴が装着され、はじめは違和感からか外そうとしていましたが、直ぐに慣れてその日の内に生きたドジョウも食べられるようになりました。

残念ながら装着後、10日で外れてしまいましたが、この間の2羽の関係は少しですが良いものでした。オス

飼育日報より

- | | | | |
|-----------|--|-----------|--|
| 9/13 ☀ | シフゾウ♀尻部に傷、大きく目立つ。
カナダヤマアラシ仔♀体重3.36kg(前回測定より2kg増)。 | 11/6 ☀/☘ | ワオキツネザル♂1 旭山動物園に寄贈。 |
| 9/14 ↑ | マントヒヒ交尾確認。 | 11/7 ☘ | レッサーパンダ「ナナ」♀体重5.5kg。
カナダヤマアラシ♂右前歯折れていたため麻酔下にて治療。 |
| 9/16 ☀ | ノドジロオマキサル「デメ」♀1仔出産。 | | アフリカヤマアラシ仔♂と判明。体重600g。 |
| 9/17 ☀ | ペンギンパレード練習のため餌を手で直接給餌する。 | | チンパンジー「ココ」♀夕方♂1 出産。 |
| 9/18 ☘ | ワライカワセミ「銀」♀右足の調子が悪いため診察(体重362g)。 | 11/8 ↑ | シマウマ「コタロウ」♂フェンスに衝突。そのまま起立不可能となる。 |
| 9/20 ☘ | イヌワシヒナ性別判定のため採血(体重3,850g)。
ワライカワセミヒナ性別判定のため採血(体重340g)。 | | チンパンジー「ココ」♀授乳確認。 |
| 9/22 ↑ | レッサーパンダ「ナナ」♀体重6.2kg。 | 11/9 ☘/↑ | シマウマ「コタロウ」♂死亡。 |
| 9/27 ☀ | ベンガルトラ「マドンナ」♀とアムールトラ「ウィッキー」♂仕切越しに見合い。 | 11/10 ☀ | レッサーパンダ「ハナ」♀起立不能になり入院。
トナカイ♂片方角が落ちる。
レッサーパンダ「ハナ」♀朝、循環不全のため死亡。 |
| 10/4 ↑ | カンガルー「モモ」♀治療経過良好のため群れへ戻す。
ライオン交尾確認。 | 11/13 ↑ | リスザル「No.16」♀帝王切開後の経過チェック。 |
| 10/6 ☀ | レッサーパンダ仔の性別と体重測定。(杏杏♀1.0kg、飲飲♂1.2kg、麻麻♀1.2kg) | 11/17 ☘/☘ | ビーバー「親」♀歯の伸びを治療。
ライオン交尾行動確認。 |
| 10/7 ☘ | レッサーパンダ「ハナ」♀臼歯と思われる歯が2本おちていた。
ビルマニシキヘビ「小」左眼を麻酔下にて治療を行う(体重9.08kg)。 | 11/18 ☘/↑ | カビバラ交尾行動確認。
コウノトリ「タイサ」♂義嘴の取り付け(体重5.66kg)。その日のうちにドジョウを採食。
ライオン交尾行動2回確認。 |
| 10/8 ↑ | ワライカワセミ「銀」♀頭部に突かれたような跡あり。入院し治療。
イヌワシヒナ性別判定の結果♀と判明。 | 11/19 ☘/☀ | レッサーパンダ「ナナ」♀体重6.0kg。 |
| 10/9 ☀ | ホンドテン「親」♂腸閉塞のため死亡。 | 11/22 ☘ | チンパンジー「ジェーン」♀朝方♂1 出産。 |
| 10/11 ☀ | アフリカヤマアラシ♂1仔出産。 | 11/23 ☀/↑ | ふれあい「丸官鳥」オオハシ舎に、「オオバタン」インコ舎に越冬のため移動。 |
| 10/14 ☘ | サル山「マサヨ」♀室内で11頭のサルと同居。 | 11/24 ☘ | F. ケージ「ハクチョウ、オシドリ」を除いてF. ケージ内越冬舎へ移動。 |
| 10/15 ↑ | レッサーパンダ「風」体重7.0kg、「陸」体重5.0kg。 | 11/28 ☘ | チンパンジー「ジェーンの赤ちゃん」の元気がないため「ジェーン」に麻酔をかけ仔を取り上げ人工哺育することとする。 |
| 10/21 ☀ | キンパドリ♀回虫が多数寄生し衰弱亡。
アシカ「ナナミ」♀餌を自ら食べないため強制給餌を開始。 | | コウノトリ「タイサ」♂義嘴外れる。(10日目) |
| 10/22 ☘ | アシカ「マヤ」♂と「スミコ」♀同居。 | 11/29 ☘/↑ | ベンガルトラ「マドンナ」♀麻酔下にて爪切り。 |
| 10/24 ☘/↑ | レッサーパンダ「ハナ」♀ロフトから落ちて失神。 | 11/30 ☘ | キリン「リリカ」♀右前肢を痛めている様子。 |
| 10/25 ☀ | チンパンジー「ノリコ」♀と「ココ」♀外の展示場で同居。 | 12/1 ☘ | コモンマーモセット♀帝王切開後の経過チェック(体重400g)。 |
| 10/26 ☀ | ショウジョウトキ1羽ふらついていたので入院。
ワオキツネザル♂同士の闘争でケガ。治療のため入院。
アシカ「スミコ」♀室内小窓から脱走。15分後には室内収容。仔「ナナミ」♀を体重測定のため病院につれていった際に起こった(ナナミ：体重21.18kg)。 | 12/3 ☘/☘ | サル山♂1 右後肢を負傷。病院へ収容。 |
| | | 12/5 ☘ | ツル舎「マナヅル」、「クロヅル」入院棟へ越冬のため移動。
シンリンオオカミ富山市ファミリーパークより2頭搬入。 |
| 11/4 ☘ | ライオン交尾行動確認。
ビルマニシキヘビ「大」敗血症のため死亡。解剖の結果♀と判明。 | 12/8 ☀ | コウノトリ「タイサ」♂義嘴再装着(体重5.62kg)。
装着後、入院棟へ移動。 |
| | | 12/10 ☘/☘ | コウノトリ「ヒメ」♀入院棟へ越冬のため移動(体重4.18kg)。 |

の負担を少なくした装着方法なので、外れることは予想していました。そこで、前回の反省をふまえ再度取り付けを行いました。義嘴がよほど便利だったのか、装着後は外そうとする行動は見られません。

現在、経過観察中ですが2羽の関係が良くなれば春に繁殖してくれるかもしれません。兵庫県豊岡市では、飼育下のコウノトリを野生に戻す試みが行われており、試験放鳥が行われました。コウノトリのような大型鳥類が空を飛ぶ姿はとても雄大で、やはり鳥は空を飛ぶものだと思います。いつの日か大森山で生まれたコウノトリが大空を舞う姿を夢見ています。



▲2004年11月28日上嘴折れた直後



▲2005年11月18日義嘴装着後



▲2005年12月8日 再装着の治療風景

動物病院から

チンパンジーの人工哺育

飼育展示担当（獣医師）高橋 広志

昨年11月22日（良い夫婦の日）、チンパンジーのボンタ（雄、34歳）とジェーン（雌、38歳）の間に待望の男の子が生まれました。昨年度も同ペアで子をもうけましたが、残念ながら12日間と短い一生を終わらせてしまいました。その原因は、ジェーンの母乳の出が悪かったことが考えられました。なにしろチンパンジーの38歳は、人言えば60歳前後と考えられるので無理ありません。今年は、昨年の失敗を教訓に赤ちゃんの状態が悪化した11月28日（生後6日目）、すぐに人工哺育に踏み切りました。

動物病院に入院したときの赤ちゃんの体重は、1.2kgと非常に軽く、あばら骨も浮き出ていました。脱水症状もあり、ただでさえしわくちゃの顔が、一層しわしわでした。哺乳ビンでミルクを与えるのですが、初めは吸い方が分からないため乳首を口の中に入れても吸わず、1滴1滴ミルクを口の中に垂らすようにして、30分程かけて10～20mlを飲ませるのがやっとの状態でした。

生後10日頃から、自力で哺乳ビンの乳首を吸うようになり、12日を過ぎる頃には、吸う勢いが強すぎて、むせることもしばしばです。日に日に授乳量も増加し、生後20日には、1回に50ml、1日に300mlも飲むようになり、体重も1.8kgを越えました。

普段は、保育器の中で、人用の紙おむつをつけ、飼育員からもらったオランウータンのぬいぐるみにしっかり掴まって、幸せそうに寝ています。あくびをしたり、口をすぼめたり、様々な顔の表情の変化はヒトとの近さを感じさせます。すくすくと育て、チンパンジーの森の住人として皆様の前に出られることを願っています。



▲元気にミルクを飲む赤ちゃん

飼育動物数

	種類	点数
哺乳類	62	340
鳥類	57	250
爬虫類	14	42
両生類	3	11
魚類	4	28
合計	140	671

（平成17年11月末現在）

編集後期

「冬の閉園中、動物たちはどうしてるの？」よく訊かれる質問の一つです。そこで今年からは、1～2月の土・日・祝日開園して、冬の動物園も見て頂けるようになりました。過ごし方は動物によって様々ですが、寒さに耐えながら一所懸命生きている動物たちの姿を是非ご覧下さい。高橋 広志（〇〇）

【2005大森山動物園フォトコンテスト】

昨年6月1日～9月30日まで募集したフォトコンテストに15名42点の応募がありました。動物や人のふれあいが伝わる写真を基準に審査が行われ、最優秀賞1点、園長賞1点、優秀賞2点、ほのぼの賞1点の作品が決定しました。



最優秀賞

「レッサーパンチ」
神奈川県川崎市 千葉 基子さん



園長賞

「母の胸の中で」
秋田県鹿角市 鍋島 守人さん

【写真展「写真でつづるこの1年」】



1位

「へ〜んしん!とお!!」

解説 ホンドテンの「てん吉」くんです。つらい姿勢とおもうのですが、朝によく見かける姿です。時には両手をだしているときも。(笑)
担当者 佐々木 祐紀



2位

「数分後に?スイカの額に
キレイなお顔が納まるで賞!」

解説 顔だけ撮ってと思うワオキツネザルの母親に子供も応援(手助け)してるワオ〜!
担当者 佐藤 勝典



【さよなら感謝祭】

平成17年の最終開園日となった11月23日、お客様と動物に対する感謝の気持ちを込めて「2005さよなら感謝祭」を開催しました。時折、雨の降るあいにくの天気でしたが、1,879人が来園し、様々なイベントや動物とのふれあいを満喫していました。

ラクダとの記念写真タイム

お知らせ

今年から1、2月の土日、祝日に雪の動物園をテーマに冬の動物園を開園します。

●開園時間／11:00～14:00(入園は13:30まで)

●入園料／大人300円(団体240円)

※年間パスポートも使用できます。